

## 3. 編集者の条件

●前回、出版社は原稿との向き合い方次第で情報業にも製造業にもなると書いた。

先日、ある印刷業者の飛込営業を受けた折、名刺に「企画・編集部」とあるので詳細を尋ねたところ、「出版社に同伴して編集会議に出席する業務」と説明を受けた。印刷業者が編集企画力を身につければ今度は製造業が情報業になる。出版業と印刷業の境界領域は双方向で曖昧な要素がある。ところで出版社は著者との間にも双方向の境界領域を持つ。この領域は編集者、著者それぞれの夢や感動が交錯する場所であり、両者のアイデンティティ生成の場所でもあり、出版社の出発点でもある。ここでNTSの看板二誌の夢の跡を辿りたい。

●月刊『未来材料』は編集人遠藤剛教授(当時東京工業大学教授、現 近畿大学教授)との出会いに始まる。

1998年春、ある書籍の編集会議終了後、私は遠藤教授と銀座のホテルのロビーで向い合った。その折、遠藤教授から話を切り出された。「私はマテリアルの新しい雑誌を作る夢がある。タイトルは何年も前から温めている。NTSで取り組む気はないだろうか」「雑誌作りは出版社の夢です」「タイトルは『未来材料』です」。私たちのそんなやり取りから『月刊未来材料』は生まれた。先日、社内の編集企画部会議で「未来材料は誰のものですか?」という質問が出た。私は咄嗟に「遠藤先生

のものだ」と答えたが、この答えは本の編集人が誰であることを説明しても発行人が誰であるかには答えていない。発行人としての自覚を欠く答えだった。

●去る5月22日、私が評議員を務める(財)遺伝学普及会総会に弊社市川センター長吉田いづみ共々参加した。

その夜の懇親会の席上、田島弥太郎顧問が行った挨拶が胸に沁みだ。田島先生はご高齢(95才)のため不自由な身体を杖で支え直立した姿勢で、その場に居並ぶ大先生の方ではなく、私の方に身体と視線を向けたまま次のように語られた。「雑誌『遺伝』は私たちの子供のようなものです。もっと肩の力を抜いて多くの人たちに読まれる雑誌にしてほしい」。雑誌『遺伝』は61年前、田島弥太郎先生、森脇和郎先生等の遺伝学普及への並々ならぬ夢を乗せて創刊された。2005年10月、NTS顧問唐木正氏の仲介により、委託の話をお願いした折、その夢を私は十分理解していただろうか?この夢には発行人と言えども「『遺伝』は私たちのものだ」とは軽々しく言えない重みがある。いずれにしても、『未来材料』『遺伝』二誌ともに編集人、編集委員会と発行人の夢が出会い生まれた。

●日経新聞「私の履歴書」で民俗学者谷川健一氏が先達宮本常一氏との出会いを語っている。

谷川氏は『風土記日本(全七巻)』編集委員選定に当たり、民俗学の泰斗柳田国男から、当時、世間的

にはほとんど無名の宮本氏の推薦を受けた。朝から夜まで続く編集会議で、編集者谷川氏は大旅行家と尊称した宮本氏の豊富な旅の体験の裏付けのある知識に圧倒され、全身で耳を傾けた。ところがある日、新宿駅の地下道を歩いている時、谷川氏は宮本氏とばったり出会った。その出会い頭に宮本氏は「谷川さん。私はあなたに発見された」と語る。前回書いた「出版社の仕事は著者を発見すること」を地で行く話だが、なぜ著者が編集者に発見されたのか、この短文からは伺い知れない。編集会議での編集者と著者との激しい応酬が想像される。その後、紆余曲折を経て、谷川氏は編集者を辞し民俗学者(著者)への道を歩む。出版社と著者との境界領域もまた双方向で曖昧な要素がある。幻冬舎の創業者見城徹氏が語っている。「編集者の第一の条件は、相手に感動できること。そしてそれを独り占めしないで、他人に分け与えたいという情熱を持つこと」。出版社はメディアとしての印刷等業とモチーフとしての著者の夢との間でアイデンティティを模索する。進化の出口は夢の側にあるのだと私は信じている。

(参考引用文献)

- 1.「私の履歴書 谷川健一⑭大旅行者との出会い」(日本経済新聞、2008年5月15日)
- 2.「見城徹 編集者 魂の戦士」(KTC中央出版、2001年12月)

### ◎編集後記

8月8日。いよいよ北京オリンピックの開催です。思い返せば競技施設の完成が間に合うのか、という話題に始まり、チベット問題で聖火リレーが妨害されそうになったり、黄砂の問題、食べ物の問題、環境の問題・・・と心配なニュースが尽きませんでした。インターネットの掲示板でも、そうした開催への不安の声が一般の方からも多く寄せられていました。オリンピックの本来の目的は世界一を競うスポーツと平和の祭典のはず。でも今回はテロが絡んだりある競技では、朝に予選、夜に決勝という流れが通常スタイルだったものが、高視聴率獲得狙いから決勝を次の日へもちこすなど、選手に調整が求められる一幕もあるようです。せっかく4年に一度の祭典なので、純粋に自分の力を尽くすべくある選手の姿に酔いしれたいものです。(坂)

### ◎編集部からのお願い

NTSニュースでは読者の皆様からのお便りや投稿をお待ちしております。また、開催予定の勉強会・イベント等、掲載をご希望される方は下記宛までご連絡ください。

〒113-0034 東京都文京区湯島2-16-16 (株)エヌ・ティー・エス「NTSニュース」係  
FAX: 03-3814-9152 E-mail: eigyo@nts-book.co.jp

### NTSニュース

2008年8月号(通巻114号)  
2008年8月10日発行